

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372500670		
法人名	社会福祉法人 熊本菊寿会		
事業所名	グループホーム 大和		
所在地	熊本県熊本市北区植木町木留336-2		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年1月20日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な雰囲気の中、入居者とスタッフが寄り添いながらゆっくりと過ごし、スタッフは理念の一つである「共に笑顔のある楽しい暮らし」を大切にしながら入居者の支援にあたっている。ご家族からは「遊びに来やすい」「ほっとする」とのありがたいご意見をいただいている。「最後まで住み慣れた場所で暮らしたい。」という本人・ご家族の希望があれば協力医や看護師、家族とともに最後までお世話させていただいている。今でも大和で看取った入居者のご家族も時折訪ねてこられている。  
大和の一スタッフである猫の「みみ」は入居者やスタッフの癒しであり、自宅でペットを飼っておられた方にとっては大きな存在になっている。  
さらに入居者の重度化が進み(平均介護度 3.9)、スタッフは寝たきりの方に何が出来るか、どうしたらその方らしい生活ができるか、安全・安楽だけではない暮らしの支援の在り方を日々模索している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設して14年目というホームでは平均介護度4や臥床を中心とした入居者等重度化にあり、「さびしい思いだけはさせてはならない」と「一日一回の笑顔」のある生活や“安心と安全”をポリシーとしたケアを徹底している。開設時から安定した職員体制は風通しの良い関係となり、全職員でホーム運営に関わる等強固なチームワークの形成のみならず家族への信頼感として生かされ、入居者や家族の思いである「このホームで最期までの生活」を協力医療機関との連携による多くの看取りケアの実践は特筆できる事項である。専門職としての的確な判断や心身機能の活用に向けた細やかな支援、明るく自信を持ったケアが穏やかな生活となり、今一瞬を大切に個別生活特性シートや一日の生活リズムとケアポイントを共有しながら、より一層家庭的な環境が形成されている。地域と中での生活が課題としており、今後の展開に期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護の理念は、スタッフ全員で考えたもので、六つの項目からなる。いつでも振り返ることができるように、2か所に掲げている。何か解決困難なことがあった時には理念に則って行動するようにしている。	平均介護度4という重度化に、ケア理念6項目のうち特に“安心・安楽”を重点にしたケアに取り組み、問題発生時には全員で振り返る等掲げた6項目のケア理念を規範としている。管理者を中心として開設時よりの職員等定着率が高く、問題発生時にはケア規範として全員で振り返る機会を作っている。	ホーム内の2ヶ所に掲示し、職員は常に目にする事で意識付けとしている。更には外部へ向けた啓発の一環として運営推進会議の中で紹介したり、玄関への掲示等検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんは、運営会議等に参加いただいているが、なかなか他の方々とは交流が持てないでいる。	ホーム便りの地域へのポスティングにより啓発に取り組んでいるが、近隣住民との交流、特に外に向かっての交流は少ないが、開設時より取り組んでいる保育園との相互交流は継続されている。今年度の運営推進会議兼敬老会をきっかけとして地域とのつきあいを継続されることを期待したい。	昨年9月には運営推進会議兼敬老会として40名近くの住民が来訪されており、運営推進会議を通じ地域住民との良好な関係が築かれることを期待したい。地域(区)の行事等をリサーチする等、近隣住民との交流手段を検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の対応方法などの相談には、管理者を中心に個別に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の普段の生活状況などの報告を中心にしている。地域からの要望や意見などを聴く機会として大切にしている。この自己評価や外部評価の結果なども報告し意見を伺っている。	運営推進会議は家族会と絡めて開催しており、家族参加型の会議とし、現状や外部評価結果報告後意見交換を行っている。また、今年度は区長や多くの近隣住民の参加を得た会議が開催されたこともあるが、行政や地域包括支援センター等の参加は無い。	行政が参加できる日時や時間等家族とともに検討し、行政や地域包括支援センター等は案内を持参し参加を依頼することを検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの調査などには協力しているが、なかなか関係としてはできていない。	介護相談員の受け入れやスプリンクラー設置に向け行政に相談したり、生活保護担当部署との関係は深くなっている。	今回の外部評価結果の提出には市の担当部署に持ち届ける意向であり、この機会を通じ情報交換や運営推進会議への参加を依頼されることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと考えるが、気付かないうちに行っている拘束も言葉での拘束を含め、あり得るので勉強会を行ったり、お互いの言葉を注意しあったりしている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為については全員が正しく認識しているが、見えるものだけが拘束ではないとして勉強会を開催し認識を深めている。また、管理者は職員の声のトーンや、車椅子からの立ち上がり等転倒防止について出てしまう「あぶない」という声かけ等に常日頃から注意するよう指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い気を付けている。特に「言葉での虐待」が無いようにスタッフ同士が注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これも勉強会を行っている。以前、後見人を立てられた入居者に関しては出来る限りの協力をした。家族に対しても必要がる場合には、話し合うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず説明を行い納得してから、入居してもらっている。また、入居前の見学時など契約書や重要事項説明書も検討してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回開催している家族会の時に、家族同士で話していただく機会を作り、個人では出しにくい意見などを集約してもらい気軽に出せるようにしている。	職員は入居者と良く会話を交わし、「買い物に行きたい」等の要望が出される等言い出しやすい関係にある。年3回の家族会の中で家族同士の話し合いの場を作り、要望等を収集しホーム運営に反映させている。また、訪問時の状況報告時、意見等を聞き取りしており、出されたケアへの要望はプランに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から一緒におり、話しやすい環境である。運営に関してもスタッフで話し合っている。	管理者は日々ケアに入り、職員と何事も相談しながらホームを運営しており、予算や事業計画等の年間計画も全員で作成している。現状として職員体制は安定し、風通しのよい環境が作られ、管理者は休みを取ることを推奨する等働きやすい環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティング時にどうすれば働きやすくなるかなど、話し合う機会を持つようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少なくとも月に1回は勉強会を行っている。外部の研修に参加した時には、報告等を行ってもらい全員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本菊池ブロック研修には必ず一人は参加するようにし、関係づくりをしている。管理者は、他のグループホームの管理者と連絡を取り合いながら交流を深めたり相談したりしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々表情や行動を見てその人についての理解を深め、不安を取り除くために話に耳を傾け寄り添いながら生活している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来訪時、スタッフから声を掛け疑問があつたり要望や不安があればお聞きするようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时などではゆっくり話を聞き、必要であれば他のサービスの紹介をしたり地域の他のサービスに繋いだりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護理念にも「共に」という言葉を使い、支援する側される側という考えを持たないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームの支援の方法を押し付けるのではなく、家族がどのような生活を望んでおられるかを尋ねると共に面会時等の様子などから汲み取るように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの方が尋ねてこられたら、自由にゆっくりと話ができるように援助している。いつでも来ていただけるようにお声掛けも行っている。	馴染みの場所へ出かける事は困難な状況があり、家族や姉妹等の関係が途切れない様いつでも来訪して欲しいと声かけしている。友人の訪問時にはホームに来ていただくことでその一瞬でも喜びがあると送迎したり、馴染みの美容院からの来訪、同窓会の案内には家族に相談している。家族との墓参等家族の協力を得た支援もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を持っておられるときは、あえて間に入らずに見守るようにしている。孤立されたり様子が変わった時などは間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰されたり、入院された方など家族からの相談に乗ったり本人の声を聴いたりしている。入院が長くなり契約が切れた方も家族の希望等もあり時折面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人を理解するために毎日の関わりの中で、「その人」に注目し関心を持ってケアをしている。介護度が上がり自分の思いを伝えられない方が多いので、より注意深く接したりご家族に尋ねたりしている。	職員は日々深く関わり、入居者個々を“知る”ことに徹しており、認知症の進行や難聴、発語困難、意思疎通困難な方と様々な状況に“うなずき”“笑顔”をバロメーターとしたり、会話の中に選択肢を投げかけながら本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話はもちろん、ご家族や友人ケアマネージャー等からも話を聞いたりしている。アセスメント時だけでは無くふとした時の気づきをスタッフ全員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の変化などスタッフ全員が共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画策定者一人で建てるのではなく、アセスメントには必ずスタッフもかかわってもらうようにしている。できたプランも本人・ご家族の意見を取り入れることはもちろん、スタッフにも意見を聞きプランに反映させている。	個別生活特性シートを活用し、全職員でのアセスメントを実施している。短期及び長期目標毎の見直しや状態変化時には随時見直し現状に即したプランを作成している。個別記録、毎月の評価等を基にカンファレンスを実施し、現状の確認と見直しの必要性を検討している。また、家族にも作成したプランをもとに再度要望等を聞き取りし、正式な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録により情報の共有化ができています。その情報をプランだけでなく日々のケアに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームなので柔軟に対応ができていると思う。家族やスタッフと相談しながら対応している。		
29		○地域資源との協働			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の顔見知りの方を通して、グループホームの中だけでない楽しみのある生活を送っていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の協力医である谷口Drは週に1回は往診していただいております、入居者の状態によっては夜間や休日でも対応していただいております。入居者やご家族にも安心してもらっている。	入居者の多くが協力医院を主治医とし訪問診療を受けられたり、以前からの馴染みのかかりつけ医に家族と共に受診や定期健診に通われる方等、入居者及び家族の希望のかかりつけ医としている。職員は日頃の様子を観察し主治医と連携を図り、入居者の体調管理や異常の早期発見に努めている。管理者とオンコール体制を取り、医療機関への相談等適切な体調管理及び早期の受診に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは介護看護の区別なく一緒にケアを行っている。谷口医院の看護師とも密に連絡をして情報の共有を図り、適切な受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、情報提供所を作成し入院先でもできるだけグループホームと同じ生活ができるように支援している。なるべく毎日面会に行き情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の希望を必ず伺うようにしているが、状態が変わった時等変化に合わせて具体的な話をしている。看取りに関しては文章を利用してご家族と話し合い、医師・看護師・スタッフ等でチームとして本人だけでなくご家族も支えるように努力している。	入居時に重度化や終末期に対するホームの取り組みや指針を説明し家族の意向を把握し、状態変化時や家族の訪問時等意向を再確認をしている。職員は看護面を含めた勉強会を実施し、一人ひとりの尊厳や思いに応える為の支援を検討しながら、現在も臥床中心の入居者の生活を支えている。協力医や訪問看護との24時間連携により、重度化及び終末期まで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の方法を学ぶと共にマニュアルを整備し、緊急時連絡先や処方箋一覧と一緒にいつでも利用できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日避難経路の点検や消火器チェックを行い、居室配置図や入居者数のチェックも併せて行っている。消防署立ち合いのもと避難訓練を行っている。	今年度1回目の消防署立会いのもと昼間を想定した火災訓練を実施し、近隣に参加協力を呼び掛けている。又、日頃から避難経路をチェックし、有事に備えている。スプリンクラーの設置工事を開始するに当たり、運営推進会議で工事期間中の入居者の生活についても家族に説明している。今後は夜間想定も実施していく意向である。	今後も防災訓練時には地域に向けポスティングにより協力を得たいとしており、更に近隣住民との協力体制について話し合う機会を検討したり、非常時の備蓄等について検討頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人のプライドを傷つけないように言葉遣いには注意している。できるだけ感情的にならないようにし、また大きな声は他の方が聞くと怒っているように聞こえるので穏やかでゆっくりと声掛けをするようにしている。	職員は親しみを込めた言葉かけが馴れ合いとならない事や話し方及び声のトーンに配慮し、気づいた時にはお互いに注意喚起している。排泄や入浴時のプライバシーの確保に取り組み、個人情報についても取扱いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に表せない方が気持ちを表出できるように、ゆっくりと話を聞いたり表情やしぐさからよみとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるがその人の表情や体調を見ながら、無理なく落ち着いた生活を送ることが出来るように支援している。一日に一回でも心から笑顔になれるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物を用意したりする時、その人のこだわりを大切にしながら支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一日のメニューを決めるときは出来るだけ入居者と相談しながら決めている。調理はその人に応じて芋の皮むきなど出来ることをしてもらっている。	日頃から入居者に食べたい物を聞き取り、その日の献立を決めている。入居者によっては買い出しや下ごしらえ・味見・茶碗拭き等一緒に行っている。職員は入居者の横で、介助したり見守り(むせや早食い等)、食事の話題から回想法に繋げる等和やかな食事風景である。外食もままならない状況に、行事食や誕生日・干し柿づくり等入居者の楽しみとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックは必要な時に必要な方だけ行っている。水分はお茶だけでなく他の飲み物なども組み合わせながらできるだけ飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は一人一人に応じたケアを行っている。口腔ケアの重要性を理解して取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、さりげなく早めに声掛けをしている。早めの声掛けをすることによって失敗を出来るだけ防ぎ自信に繋げるようにしている。	自立された方にトイレの場所を声かけしたり、頻尿には排泄チェックを実施し誘導のタイミングを図る等一人一人の排泄パターンを把握し、失禁対策に早めに声かけし自信回復に努めている。又、個々に合わせた排泄用品を検討し、夜間も時間を見計らってトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や十分な水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はほぼ毎日行っており、体調や本人の一向に沿いやすい。入浴時は一人ずつ入ってもらっており、スタッフが必ず見守りを行っている。	入居者の希望の時間等に毎日支援しており、長湯や湯温調整等も個々に合わせている。入浴拒否に対しては無理強いをせず次の日に支援したり、トイレに行かれた時等タイミングを見計らい声かけしている。主治医の指示を受けながらの入浴や、入浴できない時は清拭等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情やしぐさなどを見て疲れが見られるときは、部屋で休んでいただくように声掛けをしている。夜にゆっくり休んでいただくために、夕方からは入居者だけでなくスタッフも穏やかに過ごしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用について勉強を行い、こすりの変更があるときには注意深く見守るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中で本人ができることは、時間がかかってもできるだけ自分でしてもらっている。時間があるときには、音楽を聴いたり折り紙やトランプなど趣味のひと時を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの時には、個別に出かけている。車椅子の方は花壇の花などを眺めたりして季節感を味わってもらっている。	暖かい日の散歩や、花壇を整備し花を植草取りなど外気に触れる機会を作り、買い物に出かける等個別の支援に努めている。	重度化により外に出る機会は少ないが、家族との墓参等に出かける方もある。入居者も外出したいとの希望も少ない状況にあり、今後も時節を考慮しながら戸外にでたいという思いを引き出す工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援	利用者の中にはお金の話で不安になった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	り興奮される方がいらっしゃるので、話の内容には気を付けている。買い物時好きなものを買うよう声掛けして満足感を味わってもらっているようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。毎日兄弟に電話をされる方もおられる。本人からの希望がない時でもスタッフから声掛けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から施設や保育園のような装飾にならないように留意している。室温の管理も入居者への声掛けや様子を見て行っている。生活の匂いが不快なものにならないように換気等を十分に行っている。	ホーム内は家庭的な雰囲気が漂う台所や食堂・畳の間等落ち着いた造りとなっている。廊下は非常時に対応できるようにレイアウトを変更し、椅子やソファで寛ぐ場所を作っている。トイレ前には暖簾を付け目印にしたり、玄関や廊下等に置かれた花にも季節感が漂っている。その時々に合わせて室温調整やこまめな清掃を行い快適な共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいすなどを配置し個々のくつろげる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく入居時に使い慣れた家具を持ってきてもらい、今までの生活がなるべく継続できるように心掛けしている。	入居者が使い慣れたベッドやタンス等が持ち込まれ、テレビやコタツ・家族写真や位牌等で一人ひとりが落ち着いて過ごせる部屋である。居室でテレビ鑑賞にふけったり、炬燵で足を伸ばす人や居室での生活が多い入居者にもこれまでの継続を意識しながら安心できる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人がわかりやすいように居室の入り口には「表札」をつけて、部屋に帰るときなど確認してもらい間違いをできるだけ防いでいる。トイレには暖簾をつけ目印にしている。		